

## 第2回インターネット依存国際ワークショップ（IIAW）を終えて



平成25年5月31日に横浜みなとみらい地区にある「はまぎんホール ヴィアマーレ」にて第2回インターネット依存国際ワークショップが開催されました。第1回（平成24年3月）ではネット依存に対する取り組みで先進国である韓国から臨床家を招いてのワークショップでした。今回は、韓国（国立情報社会振興院、韓国ソウル国立病院）、台湾（高雄市サイアカン病院）ベルギー（カトリック・ルーベン大学心理科学研究所）タイ（国立メンタルヘルスセンター、シリラート病院）

4か国6名の海外講師を招き、日本からは当センター3名が発表をしました。各国の調査研究による現状、予防・治療・教育などの対策やその必要性などが報告され、質疑応答や総合討論ではフロアとの活発なやりとりがみられました。参加総数は181名。厚生労働省、文部科学省、法務省はじめとした行政機関、教育関係者、学生、当事者や家族、マスコミなど幅広い参加を頂きました。われわれネット依存治療研究部門（通称：TIAR）は平成23年7月に開設し、近く2年を迎えます。



開設以来、現在も北海道や九州からも治療やカウンセリングに家族や当事者が来られています。ワークショップ開催直前にはドイツの青少年保護局から9名ものスタッフが当センターを訪問し、ネット依存に対する取り組みについて日本の当事者を変え意見交換をしました。今回のワークショップでもネット依存問題については世界各国で調査研究が行われ、多くの共通する問題が明確化してきていることが確認できました。またその問題解決のため医療、行政、教育機関との連携した調査、治療や予防プログラムの開発、啓発の必要性を強く感じました。

今回、開催するにあたってご後援いただきました厚生労働省、神奈川県、神奈川県教育委員会、横浜市健康福祉局をはじめ多くの関係者の方々にご支援いただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。皆様方に深く感謝しますとともに引き続きインターネット依存に対する治療研究を重ね、ネット依存に苦しむご家族や本人、そして日本社会、国際社会への支援となるよう TIAR 一同、努めていきたいと思っております。ありがとうございました。

平成25年6月

文責：TIAR 前園真毅（精神保健福祉士）

当日の講義資料（一部）も掲載していますのでご参照ください。